

「特集」これで完ぺき！

# 梅雨に負けない ボデイケア

監修：内田恵子

プロフィール  
獣医師。ACプラザ刈谷動物病院統括院長。  
麻布大学獣医学科卒業後、日本歯科大学病  
理学教室を経て同院勤務。2012年1月  
より同院統括院長に。内科、神経病、行動学  
を中心に、脳と心の治療の研究がライフ  
ワーク。

日本列島の南のほうから、梅雨入り宣言の声が聞こえてくる季節になりました。

しばらくは雨の日が続く、やがて夏を迎えますが、

全身を毛で覆われている犬にとって、これからはトラブルが起きやすい大変な時期。

日常のボデイケアの注意点、雨の日の散歩のあとのケアのしかたなどをしっかりと押さえ、  
上手にこの季節を乗り切りましょう。

# 犬は梅雨が苦手

一年で最も犬も体調を崩しやすい時期

気温や気圧の変動が激しい季節の変わり目は、人間も体調を崩しやすい時期ですが、犬も同様で、さまざまなトラブルで動物病院を受診するケースが多くなります。

とくに、心臓病や自己免疫疾患（甲状腺機能低下症、免疫介在性溶血性貧血、多発性関節炎など）をもっている場合、梅雨から夏にかけての時期に体調を崩すことが多く、この時期に初めてこうした病気をもっていることがわかることも少なくありません。

全身を毛で覆われている犬はもとも暑さに弱い動物ですが、とくに日本の梅雨から夏の高湿多湿な気候は犬にとつて過ごしにくいものです。犬は、暑いときは舌を出してハアハアとあえぐような呼吸（パンティング）をし、水分を蒸発させることで体温を下げます。しかし、湿度が高いとパンティングをしても水分が蒸発しにくく、体温調節がうまくいかないのです。こうしたことも、体

調を崩す原因になります。

さらに、最近ではゲリラ豪雨や雷に見舞われることも多くなってきました。犬によつては、雨風や雷などの音や光などにストレスを感じ、体調不良や不安行動を起こすケースもあります。

高温多湿な季節は皮膚トラブルも多くなる

犬の皮膚トラブルは人間よりも多くみられます。密生した毛で覆われているために皮膚に汚れや細菌が付着しやすく、また、一度付着すると取れにくくなって炎症などを引き起こしてしまします。

とくに高温多湿な季節は皮膚や被毛が不衛生になりやすく、すぐに皮膚トラブルを起こしてしまします。中でも、ノミやダニ、毛玉、下毛のトラブルには注意が必要です。

ノミ・ダニによるトラブル

気温が高くなると、ノミやダニの活動が活発になり、散歩のときなどに寄生されやすくなります。強いかゆみが出るだけでなく、掻き傷から細菌が感染して感染症になったり、

季節の変わり目は人間も犬も体調を崩しがちですが、とくに一気に不快指数が増す梅雨の時期は、厚い毛皮を着ている犬にとつてつらい時期です。

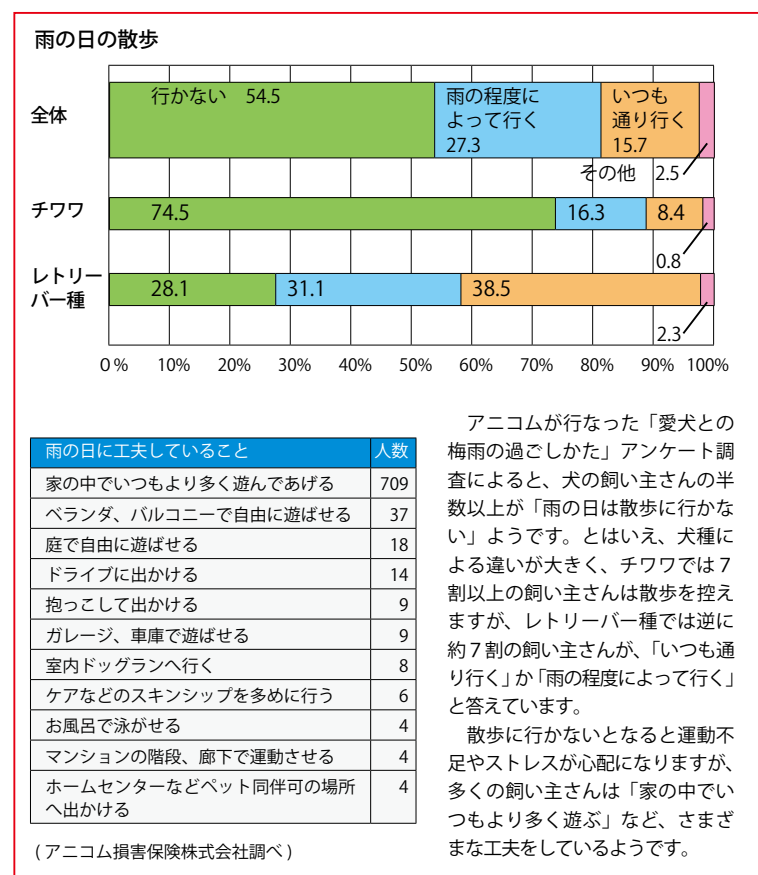
ノミアレルギー皮膚炎になったりすることがあります。

毛玉によるトラブル

毛玉ができると、通気性が悪くなつて炎症が起きやすくなります。さらにそこを犬が気にして咬んだり掻いたりすると、炎症が悪化することもあります。

下毛によるトラブル

下毛（左ページ参照）をもつ犬種は、通常は換毛期に下毛が抜け落ちますが、下毛が残っていると、その部分が暑さで蒸れて炎症が起きやすくなります。また、体温調節がうまくできずに元気がなくなることもあります。



## 梅雨時に役立つ被毛の基礎知識

被毛の種類

犬にはさまざまな被毛（コート）の種類があり、同じ犬種でも、異なる毛質をもつものもあります。

ダブルコート

長く強い質の上毛（オーバーコート）と、上毛より短めでふわふわの柔らかい下毛（アンダーコート）の2重構造に生えているものを言います。下毛は、上毛の生えている毛根から生えており、密生して生えているため空気を含み、保温性にも優れています。水に飛び込んでも、地肌まで

濡れずに済むため、水鳥類などでの長時間の屋外活動に適しています。

換毛期には、数週間にわたり下毛が驚くほどごっそりと抜け落ちますが、抜けずに蒸れると皮膚に炎症を起こすこともあるため、毎日の手入れが欠かせません。

代表的な犬種は、寒冷地での作業に適した犬種、山間地での狩猟を行う日本原産犬種、山岳地方などで活躍する牧羊・牧畜犬種などがあります。

シングルコート

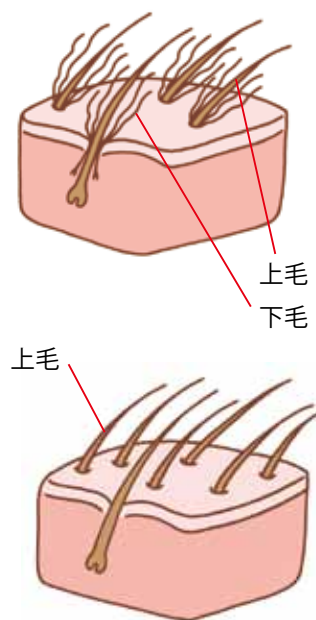
上毛（オーバーコート）のみで下毛

ダブルコートの犬種一例  
（犬種の並びはFCIのグループ順です）

- 1G  
ビアデッド・コリー、ベルジアン・シェパード・ドッグ・ターピュレン、ベルジアン・シェパード・ドッグ・グローネンダール、ボーダー・コリー、ラフ・コリー、スキップパーキ、ウェルシュ・コーギー・ペンブロークなど。
- 2G  
ニューファンドランド、セント・バーナード、ミニチュア・シュнауザーなど。
- 3G  
ケアン・テリア、スコティッシュ・テリア、ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリアなど。
- 5G  
サモエド、ボメラニアン、秋田、シベリアン・ハスキー、柴など。
- 8G  
ゴールデン・レトリバー、アメリカン・コッカー・スパニエル、ラブラドル・レトリバーなど。
- 9G  
シー・ズー、ペキニーズ、チワワなど。

シングルコートの犬種一例  
（犬種の並びはFCIのグループ順です）

- 2G  
ミニチュア・ピンシャー、ドーベルマン、ボクサーなど。
- 4G  
スムースヘアード・ダックスフンドなど。
- 9G  
マルチーズ、プードル、パピヨンなど。
- 10G  
イタリアン・グレーハウンドなど。



ダブルコート  
びっしりと生えている下毛は、換毛期にごっそりと抜け、冬になる前に再び生え換わる。抜け落ちる期間中は下毛の始末を毎日する必要がある。

シングルコート  
換毛期に多量の毛が抜けることはないが、長毛・短毛にかかわらず普段より多く抜けることがある。

被毛の種類によって手入れ方法は異なる

被毛は犬の印象を大きく変えるものですが、被毛の種類によって、手入れの方法や使用する道具は大きく異なります。

たとえば、ダブルコートや長毛にはスリッカーブラシや獣毛ブラシ、短毛にはラバーブラシや獣毛ブラシを主に使います。

被毛に適した方法で手入れをしないと、毛並みが悪くなったり毛玉ができたりします。



# 実践!! ボディケア

梅雨時は犬の皮膚も湿っぽくなって皮膚トラブルが起きやすくなります。ボディケアをしっかり行って皮膚トラブルを防ぎましょう。ボディケアは健康チェックや犬とのコミュニケーションにも役立ちます。

撮影協力／濱田寿科（ACプラザ刈谷動物病院）

## 耳

**お手入れのポイント** 梅雨時は耳をかくが増えます。耳に痒みがあるかどうかは、後ろ足でかく動作があるほか、耳の後ろをチェックして判断します。長毛の場合は耳の後ろ側の毛がもつれ毛玉ができています。短毛の場合は耳の後ろの毛が脱毛しています。耳のお手入れは一週間に一度くらいの割合で十分ですが、それ以上にかゆがったり汚れたりしているときは、獣医師に診てもらったと安心です。



耳の中に赤みや汚れがないかチェック。毎日観察していれば、異常がすぐに見分けられる。耳をかくがっている場合は、こまめに耳そうじをしましょう。



耳のそうじは、①②化粧用のコットンを指に巻き、イヤーローションをつけて行う。③指が届く範囲を軽く拭くだけで十分。耳の奥まで拭こうとしたり、力を入れて拭くと、傷をつけることになる。

## 鼻

**お手入れのポイント** 梅雨時、とくに注意が必要なのは、ブルドッグやシー・ズーなどの短吻種です。食べカスや唾液などが鼻や口のまわりに付着しやすく、放っておくと皮膚炎になってしまいます。顔にしわがある犬はできるだけきれいにしておきましょう。



健康なときの鼻は、湿り気があってツヤツヤしている。熟睡している間は鼻が乾いているが、それ以外で乾燥して体温が高いとき、黄色や緑色の鼻汁が出ているときは注意が必要。

## 目

**お手入れのポイント** 涙や目やにに気づいたら、こまめに拭いてあげましょう。これらを放っておくと、酸化して茶色くなる涙やけを起します。



しきりに目を掻くようなときは、あごの下に手を添えて、目が充血していないか、まぶたを軽く引き上げて白目の色をチェックする。



黄色や緑色の目やにが出ているときは獣医師に診察を受ける。



目やにや涙を拭くときは、化粧用コットンを濡らして目の周りを拭く。



目薬の差し方 片方の手で犬のあごを固定して顔を上に向けて。もう片方の手の小指を犬の額に置き、目を少し押し開くようにしながら目薬を差す。

## 口

**お手入れのポイント** 歯磨きは、犬が嫌からない範囲で一日一回行うとよいでしょう。コットンやガーゼを使って歯磨きをし、慣れたら歯ブラシへと発展させましょう。歯磨き剤はジェル状のものが使いやすいでしょう。



唇をめくり、歯ぐきの色、舌の色、歯の状態、口臭をチェック。とくに舌の色がきれいなピンク色をしていないときは、具合が悪い可能性が高い。



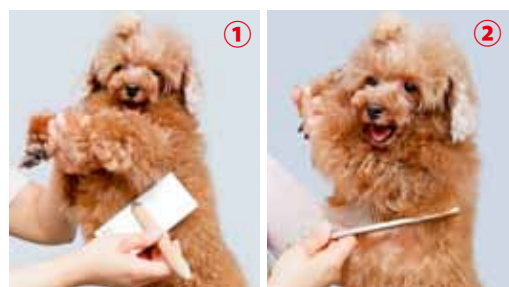
歯の磨き方 濡らしたコットンやガーゼを指に巻き、歯磨き剤をつけてやさしく歯磨きする。指を入れられないときは、口腔内バランスを整える歯磨き剤を口の中に落とすだけでも十分。

## 胴

**お手入れのポイント** 長毛の場合、わきの下や内股の毛がもつれやすく、毛玉ができやすい部分です。梅雨時は、そこに湿気がこもって皮膚炎などになりやすくなりますから、毎日必ずチェックして毛のもつれや毛玉を作らないように注意しましょう。また、散歩から帰ってから、泥や砂、土が付着して炎症が起きていることもありますから、赤みや湿疹などがないか、常にチェックしておきましょう。



手を添えて体を保定しながら行うことが大切。



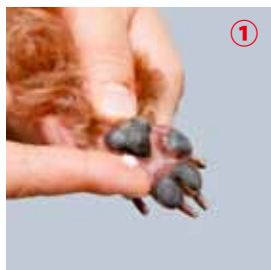
毛がもつれやすいわきの下などは、スリッカーブラシとコームを使って丁寧にブラッシングする。

## 足

**お手入れのポイント** 雨の中を歩いてきた足の裏にもトラブルがないか、手で触って確認したいものです。水を含んでやわらかくなったパッドは傷つきやすいので、十分ケアしましょう。



パットの間に赤みや傷がないか、ささくれはないか、パットに傷がついていないかチェック。指の間を押し広げるようにして確認を。散歩で足の裏が濡れて皮膚炎を起こすこともある。よく拭いて乾かすことが大事。



パッドクリーム 足裏のパッドにひび割れがあったり、炎症があればクリームや薬を塗る。

## おしり

**お手入れのポイント** デリケートで、しかも排せつ物で汚れやすい部分です。拭くだけでは不十分ですから、汚れが気になるときは、洗い流さないシャンプーを使うとよいでしょう。水洗いしたときは、しっかり乾かすことが大切です。



肛門腺の位置は○印の近く。時々さわって確認し、たまっていたら絞るとよい。



おしりを拭くときは、濡らしたコットンを使い、肛門から外側に向かって拭く。



汚れや水分が付着していると、湿疹などができやすい。おしりのケアをするときは必ずチェックを。

## しっぽ

**お手入れのポイント** 元気によく振る犬ほど汚れやすく、毛がもつれやすい部分です。やさしくほぐすようにブラッシングします。



スリッカーブラシをかけたあとにコームで毛並みを整える。



# 実践!! ボディケア

## 梅雨時の重点的お手入れポイント

ここに注意すれば  
快適度はアップする

梅雨時は、被毛のお手入れがきちんとできるかで快適度は大きく変わってきます。

毛のもつれや毛玉、抜け残った下毛があると、暑さで蒸れて、においがするようになったり、炎症を起こしたりすることが多くなります。

また、その部分を犬がかゆがって噛んだりなめたりして、炎症がひどくなったり、より強く毛がからまつたりすることもあります。そうしたストレスも加わり元気がなくなることもあります。

梅雨から夏の間はブラッシングをこまめにし、被毛の汚れや下毛を取りましょう。

スキンシップを兼ねながらブラッシングすることで被毛や皮膚の異変にも気づきますし、ノミやダニの寄生にも早く気がつくことができます。

## 毛玉は早めに始末する

**お手入れのポイント** 毛がもつれたまま放っておくと、毛玉になってしまいます。毛のもつれを見つけたら、すぐにスリッカーブラシを使ってほぐしましょう。犬の毛は、水分を含むとかしくなりやすいため、手入れの前に雨に濡らしたりシャンプーをしたりしないようにしましょう。

毛玉になってしまった場合は、指先でほぐし、スリッカーブラシをかけて毛先から毛の根元に向かって少しずつときます。犬の皮膚を引っ張らないよう、毛の根元を手で押さえながらスリッカーブラシをかけましょう。最後にコームをかけて、もつれが解消したか確認します。引っかかったら、再度ゆっくり指でほぐすところから繰り返しましょう。どうしても毛玉が取れない場合は、獣医師やトリマーなどに取ってもらうほうがよいでしょう。ハサミを使って自分で切ろうとして犬を傷つけてしまうケースがよく見受けられます。



①毛玉を発見 ②指で毛玉を裂くようにしながらほぐす ③毛がすべてバラバラになるまでほぐす ④毛の根元を手で押さえながら、毛先のほうからスリッカーブラシをかける。

毛のもつれや毛玉がしやすいのはココ！  
耳の後ろ・首まわり・胴輪が当たるところ・わきの下・内また・洋服を着ているところ・おしり

## 下毛を取り除く

**お手入れのポイント** 下毛は、上毛の間に密生して生えています。そのため、表面をブラッシングするだけでは下毛は残ってしまいます。毛を分けて、毛の根元からブラッシングするようにしましょう。最初はスリッカーブラシを使い、最後にコームで毛並みを整えます。

下毛が残っていると、毛のもつれや毛玉もできやすくなります。長毛犬以外の場合、通常は週一回のブラッシングでも大丈夫ですが、換毛期は毎日ブラッシングしたいものです。



胸やおなかの毛の量が多い部分。下毛も密生しているため、しっかりブラッシングする。

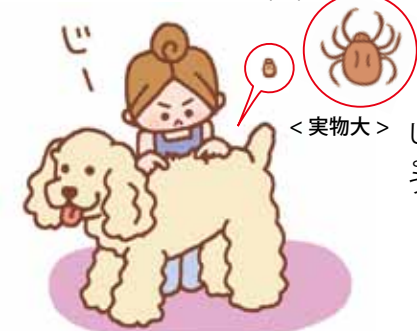


①おしりのまわりや後ろ足は毛がフサフサして下毛が残りがち。忘れずにブラッシングを。

## ノミ・ダニ チェック法

気温が高くなると、ノミやダニが活動を始めます。ノミやダニに一度寄生されると駆除するのが大変ですから、予防薬でしっかり予防しましょう。河川敷などの草の深いところで遊んだ場合は、家の中に持ち込まないよう、家に入る前によくブラッシングしましょう。

寄生したばかりのダニ（左）。血を吸って大きくなったダニ（右）。



ブラッシングをかけるときなど皮膚にゴマ粒大のものが付着しているのを見つけたら、ダニの可能性がある。



ダニが小豆粒大にふくれ  
ていたら病院へ。

血を吸う前で、毛の間を動いているようにあればガムテープなどに貼り付けて駆除。血を吸って小豆くらいの大きさになっていたら、自分で駆除しようとすると、皮膚にダニの頭部が残って化膿してしまうこともあるため、病院に連れていくほうが安心。

## ノミ

犬がしきりに体をかゆがっているときは、ノミがいる可能性がある。



犬がしきりに体をかいている  
ときは、すぐに病院へ。

## 体の拭き方

犬の体をタオルで拭く場合は、強くゴシゴシこするのではやめましょう。スムースコートの犬の場合は、強くこすると皮膚を傷めてしまいます。タオルで体を包み込む感じで毛並みにそってタオルを動かします。ロングコートの犬の場合は、ゴシゴシこするのは毛のもつれや毛玉の原因になります。毛の根元を手で押さえながら水分を拭き取るようにしましょう。現在は吸水性の高いタオルも市販されていますから、そういうものを利用するのもよいでしょう。



## 高齢犬のボディケア

高齢犬のお手入れは、時間をかけずに手早く行い、こまめに何度もお手入れすることが大切です。長時間のお手入れは、体に負担をかけてしまいますので、お手入れ道具をまとめておくことが便利です。





# 雨の日を楽しく快適に 過ごすコツ

雨の日の散歩は帰ってからのボディケアが面倒ですが、手を抜かずについていねいにお手入れをして清潔な体を保ちましょう。散歩に出かけないときは、室内でできる知的な遊びに挑戦するのもいいでしょう。

## 雨の日の散歩は 飼い主さん次第

雨の日は、多くの飼い主さんが散歩をどうしようか悩みます。「散歩に連れていかないと運動不足やストレスが心配」「雨の日は、散歩から帰ったあとのケアが大変」「犬自身が雨の日の散歩を嫌がる」など、いろいろな声が聞こえてきます。

雨の日に限らず、散歩に行くかどうか、散歩の時間帯、散歩時間の長さなどは、リーダーである飼い主さんが決めてかまわないことです。

ただし、外でトイレをするようにしつけている場合は、タイミングをみはからい外に連れていく必要があります。また、散歩や運動が好きな犬は、散歩に行かない日が続くと運動不足でストレスがたまります。天候や犬の様子をみながら、散歩に連れていったり、家の中で遊んだりするようにしましょう。

## お散歩に出かけたら、 お手入れはていねいに

雨の日のお散歩のときにレインコートを着せるかどうか、犬の様子をみながら飼い主さんが判断しましょう。洋服を着慣れていなければレインコートを嫌がることもありますし、普段は洋服を着ていても、レインコートの素材の音や感触などを嫌がる場合もあります。犬や飼い主さんが嫌がらなければ、レインコートなしで散歩に出かけても問題はありません。

ただし、散歩から帰ったあとはいつも以上にていねいにお手入れをする必要があります。レインコートを着ていても、水分や汚れを完全にシャットアウトすることはできません。汚れや水分が残っていると、皮膚炎を招いてしまします。レインコートがすれて、毛のもつれや毛玉もできやすくなります。

## 散歩に出かけないときは 遊んでストレス解消を

散歩に行かないときは、家の中でできる遊びで楽しみましょう。運動不足を解消しようとすると近所迷惑になることもありますから、頭を使うような遊びや、ふだんなかなかできないトレーニングをするのがおすすめです。

現在はさまざまな犬用の知育玩具が市販されていますから、そういったものを利用してよいでしょう。また、フセ、オスワリなどのトレーニングを楽しく行うのも、犬にはよい刺激になります。そのほか、投げたものを取ってこさせたり、隠したおやつを鼻で探させたりする遊びも楽しいでしょう。

## 知的な遊びで雨の日のストレス解消



### ★宝探しゲーム★

クッションの下などに犬の好きなおもちゃを隠し、探させる。最初は犬が見ているところでおもちゃを隠し、「さがせ」のコマンドで探させる。見つけたらたっぷりほめる。慣れてきたら、犬の見えない場所におもちゃを隠し、鼻で探させる。

## 部分水洗いの ポイント

汚れがひどいときは、ぬるま湯を使って部分的に水洗いしましょう。部分的にシャンプー剤を使うと、他の部分に泡が飛び散り、炎症が起きることもあるのであまりおすすめできません。



毛の流れにそって水をかけて汚れを洗い流す。



地面に接する足の裏は念入りに。



押さえるようにして水分を拭く。ゴシゴシしないように。

## 毛をよく 乾かす

**お手入れのポイント** 湿度の高い梅雨時は、自然乾燥だけでは十分なものもあります。ドライヤーを使い、毛の根元から風を入れて湿気を完全に飛ばしましょう。ドライヤーは温風ではなく、冷風でかけましょう。



## 簡単！ 愛犬に Tタッチ

### 心身の健康を高める Tタッチを覚えよう

Tタッチは、馬のトレーナーや動物の専門家として名高いリンドン・テリントン・ジョーンズが考案した、すべての動物のためのケアの方法です。現在、世界中の動物病院や保護施設、犬のトレーナーやリーダーなどでも広く利用されています。

Tタッチは犬に非習慣的な刺激を与えて心と体に働きかけるもので、免疫力を高め、病気のけがからの回復を早めるといった身体面の効果だけでなく、ストレスや不安を軽減し、問題行動を改善したり、飼い主と犬との信頼関係を強化するといった効果があります。

Tタッチの方法自体は難しいものではありません。コツさえわかれば、なでると同じようにできます。この機会にトライしてみましょう。



**肩（首まわり）のTタッチ**  
首まわりの皮膚を軽く動かすような感じで、指で時計回りに円を描いて止める。一回円を描いたら、場所を変えて繰り返す。コギーなら5力所くらいで十分。リラククス効果が高く、肩の緊張や痛みを取る効果もある。



**口のTタッチ**  
片方の手で頭を支え、もう片方の手で、鼻先から耳に向かってやさしくなでる。片方5回ずつ。短頭種の場合はしわを伸ばすようにする。口周りを触られるのが苦手な犬、吠え癖や咬み癖がある犬に効果的。咬み癖がある場合は、革の手袋を着用するとよい。



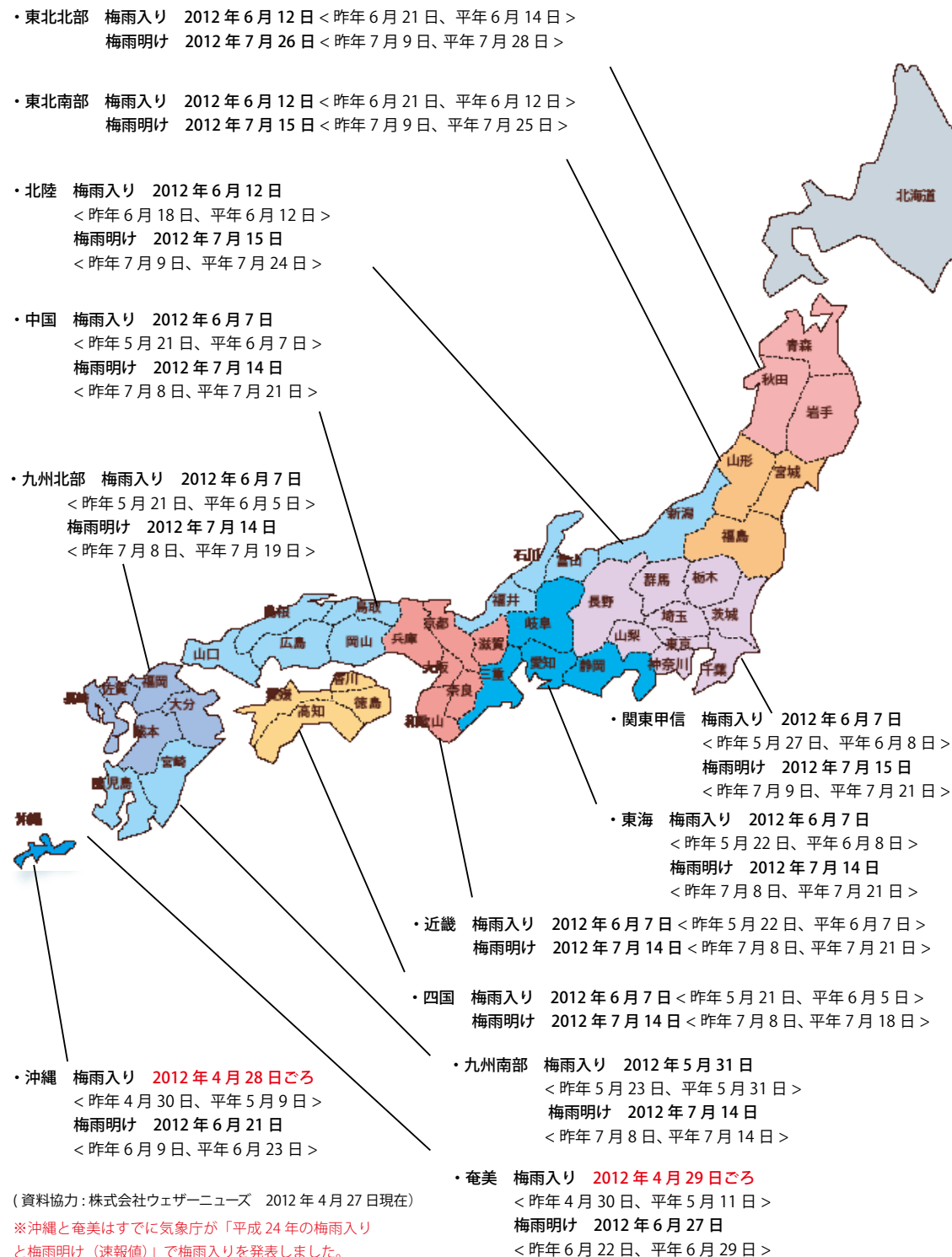
# 今年の梅雨は どうなる?!

**梅雨入りも梅雨明けも  
去年よりも早まる?**

沖縄は4月28日に、奄美は4月29日に梅雨入りしています。例年よりも沖縄は11日、奄美は12日、昨年よりも沖縄は2日、奄美は1日早い梅雨入りとなっています。株式会社ウェザーニューズによると、関東以西は昨年より遅いが平年並みの梅雨入りで、北陸と東北は昨年より早いが平年並みと予想されていますが、これらの地域の梅雨入りも早まる可能性があります。

一方、梅雨明けは全体的に昨年より遅いが平年並みと予想されています。また、天候の特徴として、沖縄と西日本を中心に大雨も予想されています。

梅雨に入ってからあわてることのないよう、お早めに左記の準備をしておきましょう。



今年は沖縄と奄美地方は、例年よりも10日以上も早く梅雨入りをしています。今年の全国の梅雨はどうなるのでしょうか。

## 梅雨時の日常管理のポイント

**衛生管理を  
きちんとやる**

湿度も温度も高くなる梅雨時は、人間や犬には暮らしにくい季節ですが、カビや細菌はもっとも繁殖しやすい季節です。愛犬の生活空間の衛生管理は飼い主さんの仕事です。

●**食器は毎日洗う**

ウェットタイプのフードはもちろん、ドライフードでも梅雨時は傷みやすくなります。食器は風通しのよいところに置き、食べきれる量のフードを与えるようにしましょう。食べ残したらすぐに捨て、食器は一回ごとにきれいに洗います。

●**水は涼しい場所に**

一度口をつけた水はすぐに傷んでしまいます。水は何力所かに置いて頻繁に取り換え、いつでも新鮮な水を飲めるようにしましょう。

●**愛犬の寝具を日光に当てる**

愛犬のベッドは、においがこもりやすく、ノミ・ダニなどの温床にもなります。お天気がいい日にはできるだけ干すようにしましょう。

**住まい全体の  
多湿を防いで快適に**

この季節は住まい全体の湿度がすぐに高くなってしまう。窓やドア、換気扇など、少なくとも2カ所の通風口を作り、空気の流れを作りましょう。扇風機を利用するときは、愛犬に風が直接当たらないよう、壁や天井に向けます。

家の中でとくに湿度が高くなるのは、キッチンや浴室、洗面室などの水回りです。キッチンでお湯を沸かしっぱなしにしたり、お風呂のふたや浴室のドアを開けっ放しにしたりすると、住まい全体の湿度が一気に高まりますから、家族全員で気をつけるようにしましょう。

洗濯物を室内に干したり、観葉植物をたくさん置いておくのも湿度が高くなる原因です。できるだけ風通しのよいところに置くようにしましょう。

室内はまめに清掃を行い、湿気や細菌を寄せ付けないことも大切です。

水はこまめに換えて新鮮なものを与える。



室内に湿気がこもらないようにエアコンと扇風機で快適な環境を。



フードは湿気が入らない密封性の高い容器で保存。食器類はこまめに洗うこと。



愛犬用のタオルやマットは洗い、天気のよい日には天日干しを。